

四国ブロック徳島県大会（令和元年8月6日・徳島県：徳島グランヴィリオホテル）

参加者は約90名。全体会議では開会挨拶に続き、開催県の徳島県を代表して、尾上一昭徳島県専修学校各種学校連合会会長・四国ブロック会長が、人口減少を迎えたなか地方でこそ有効な少子化対策の検討など重要な課題を、継続的に全体で協議する重要性に触れつつあいさつを述べた後、福田益和全国専修学校各種学校総連合会会長が本部挨拶として会長就任年度に四国ブロック大会が不参加となったことを謝するとともに、就任後の活動の柱として、①高等教育の負担軽減、②時間をかけて養成する専門人材に対する就労の在留資格の対象範囲拡大、③高大接続改革における募集・入試改革の改正の影響への対応等への取り組む決意を述べた。

次に、来賓を代表して飯泉嘉門徳島県知事が祝辞を述べ、人口減少の歯止め策として地域人材の育成を実践している専門学校への県独自の奨学金の拡大方針、また、「まち・ひと・しごと創生基本方針」による政府・関係機関の地方移転など働く場の創造への意欲を語った。その後、平山元徳島市副市長が遠藤彰良徳島市長の祝辞を代読し、最後に来賓紹介、祝電披露を行って全体会議を終了した。

小憩の後、文部科学省専修学校教育振興室の水島淳専修学校第一係長が祝辞並びに行政報告として、「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」（令和元年6月21日閣議決定）、今年度の専修学校関係予算（新規事業・新規メニュー）、リカレント教育の推進方策（文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム」及び「キャリア形成促進プログラム」制度への申請促進、厚生労働省の教育訓練給付制度との連携による学び直し支援等）、「留学生の在籍管理の徹底に関する新たな対応方針」及び「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」等について配布資料の説明を行った。次に全専各連の菊田薫事務局長が団体等の活動報告として、今年度の運動の4つの「基本方針」の考え方と「重点目標」の整理の仕方（文書「専門職大学制度の創設と専門学校振興の今後の方向性」の趣旨を含む。）、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申案）」に対する団体の意見、高等教育の負担軽減、全専各連会則等の一部改正に伴う「役員の就任年齢の引き上げ」、厚生労働省の公的職業訓練の質保証の取組等を説明、さらにはTCE財団・キャリア共済協同組合が行う各種事業への積極的参画を要請した。

引き続き公務多忙の中、先の第25回参議院議員通常選挙で見事2回目の当選を果たされた赤池誠章参議院議員・自由民主党文部科学部会長が駆け付け、今回の支援のお礼を兼ねて、「高等教育の負担軽減」の支援対象者（高校3年生等）の手続き・申請の状況、高校段階での制度周知の問題等について説明を行った。

その後、小憩をはさんで「パネルディスカッション」を実施した。講師による一方向の報告を改めて、講師等と参加者との双方向の対話を通じ、参加者の意識・理解をより深めること等を目的とし、パネラーは赤池議員、水島係長、福田会長、菊田事務局長の4人が務め、4県の各参加者からの以下の意見・質問に答える形式で実施した。

- ①高知県：高校教員は「給付奨学金」を全く知らず、理解していない。教育委員会等の周知活動が不十分ではないか。民間の検索サイトに「給付奨学金」のメニューをあげることは考えられないか。最終的な総支援対象者数は都道府県別に公表されるか。
⇒日本学生支援機構が把握する情報を活用して確実に展開する方針。今後、支援対象者の申請を確認し、進学先が確定した後、都道府県別・学校種別に公表予定。
- ②愛媛県：専門学校は大学の卒業者や中退者等も受入れ、人材育成に貢献しているが、制度を知らない人が多い。高校教員、保護者、高校生へイメージアップを図るべき。
⇒大阪版「高・専接続」の関係で専門学校の取組を研修会で説明すると、高校教員の専門学校への意識が変化。内閣総理大臣の発言の「大学等（短大・高専・専門学校を含む）」から「大学・専門学校等」への変化を通じて社会的な認知は向上。文科省作成の広報資料「未来につながる専門学校」を様々な機会を活用すべき。
- ③香川県：給付奨学金は授業料減免を行う学校への進学が前提だが、毎年度継続的に支援制度を行う必要があるのか。
⇒給付奨学金と授業料減免の実施は一体のため、学校側の事由で授業料減免を取りやめることは不可。
- ④徳島県：少子化による厳しい環境での生き残り策はあるか。
⇒他のブロックでも少子化の議論が多く、今後は生産性向上・人生 100 年時代構想から社会人の学び直し等へシフトとの意見も多い。また、職業教育の地元への貢献から職業実践専門課程に対する都道府県の助成措置を求めることも重要。大学でも生き残りのため、国立大学の統合、自治体主導の国公私の連携協議会の設置に着手。

続いて行政報告及び各県活動報告として、最初に行政報告（専修学校・各種学校に対する県施策報告）が高知県（文化生活スポーツ部私学・大学支援課）、愛媛県（総務部総務管理局私学文書課）、香川県（総務部総務学事課）、徳島県（経営戦略部総務課）の順で、次に各県活動報告が高知県専修学校各種学校連合会、愛媛県専修学校各種学校連合会、香川県専修学校各種学校連合会、徳島県専修学校各種学校連合会の順で、それぞれ行われた。

最後に閉式行事となり、次年度開催県挨拶として高知県を代表して、吉岡成高知県会長・が例年の同時期に県内で全国規模の行事が行われるため、改めて 3 県と協議の上、日程・会場を決定する旨を報告、了承された。次いで閉会挨拶が行われた後、全専各連全国専門学校青年懇話会から事務連絡が行われて会議を終了、その後、情報交換会となり全日程を終了した。